

第七金剛丸の紹介

しゅんせつ

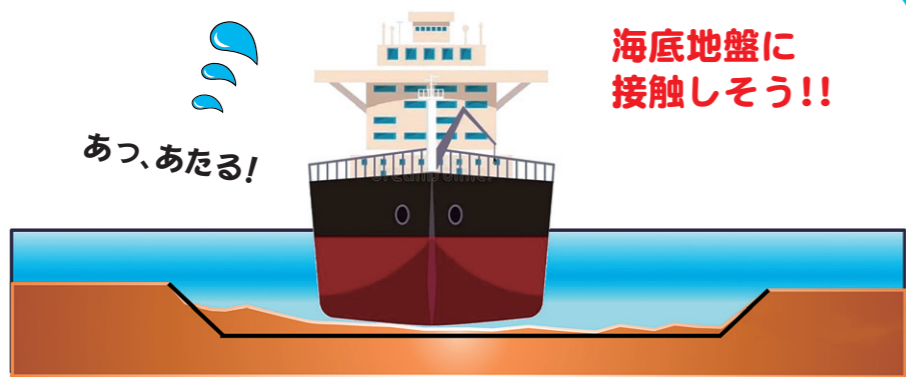


一般的に船体上に回転式のクレーンを搭載し、グラブバケットをワイヤーロープで吊り下ろして、海底の地盤を掘削することが出来る作業船を「グラブ浚渫船」と呼んでいます。

浚渫する目的は、船舶が安全に航行できる幅と水深の確保(航路)、船舶が安全に停泊できる場所の確保(泊地)、構造物の基礎を築造するため軟弱な地盤を除去(床掘)、環境対策としての汚泥等の除去、港湾及び河川などの堆積土砂の除去(水深維持)、浸食された海岸への覆土や養浜などの目的に使用するための土砂採取があります。

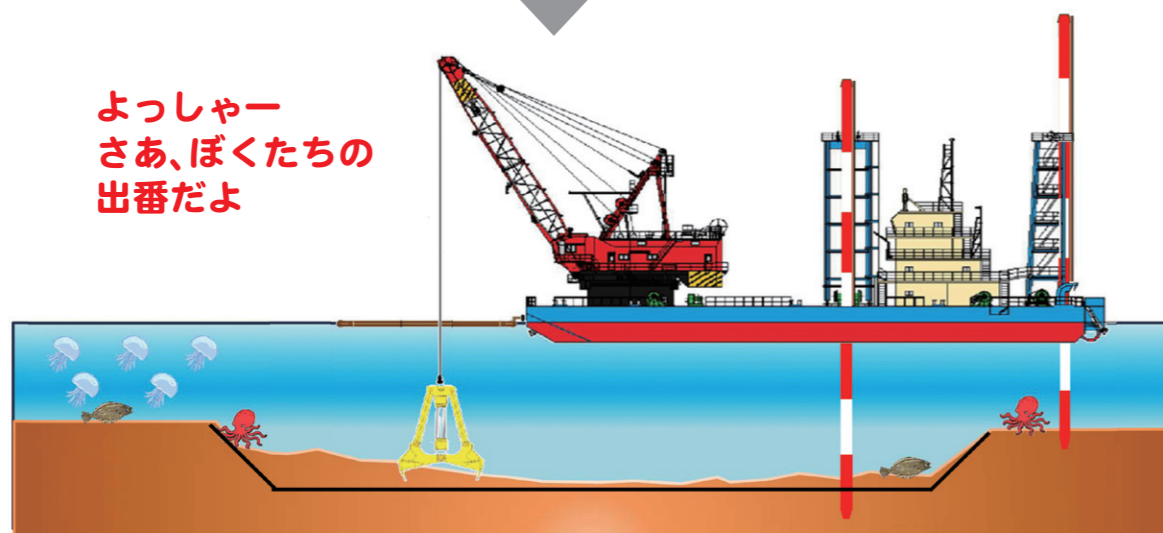
世界的に貨物船・タンカー船・客船等の大型化に伴い日本の港に入港する際、航路を航行しますが水深が浅くなってる場所があると大変な事態になりかねません。そこで松浦企業(株)が所有するグラブ浚渫船(第七金剛丸船団)の登場となります。

333

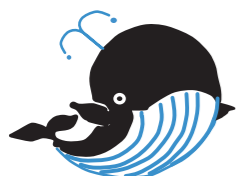


海底地盤に接触しそう!!

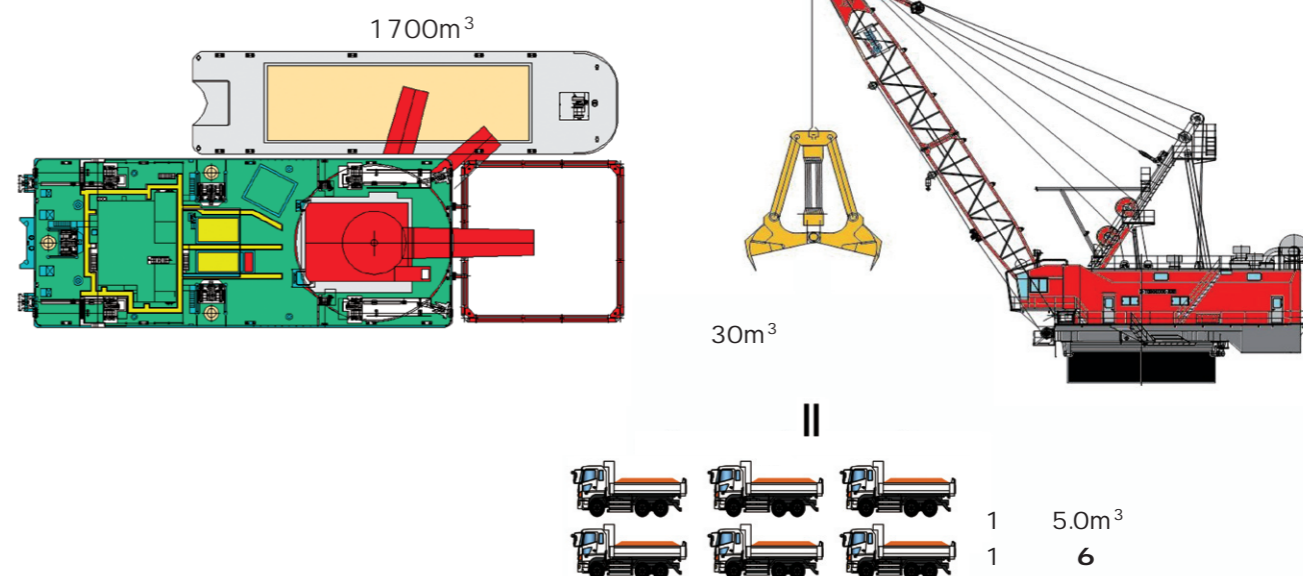
そうだ! ここは松浦企業に掘ってもらおう



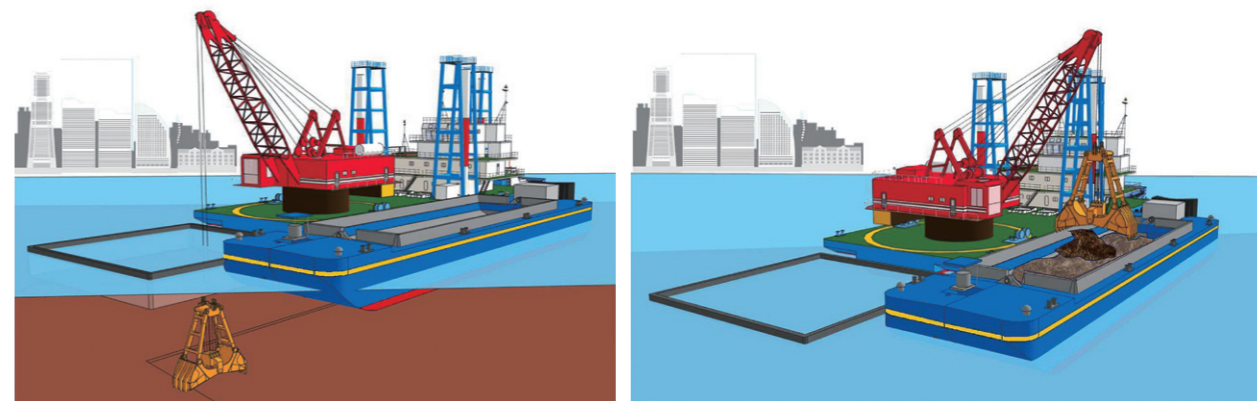
よっしゃー
さあ、ぼくたちの
出番だよ



UFO !!

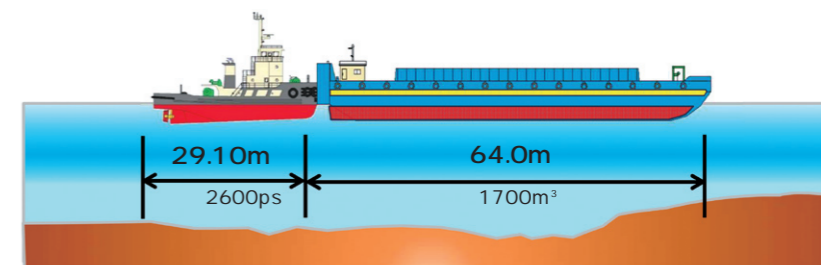


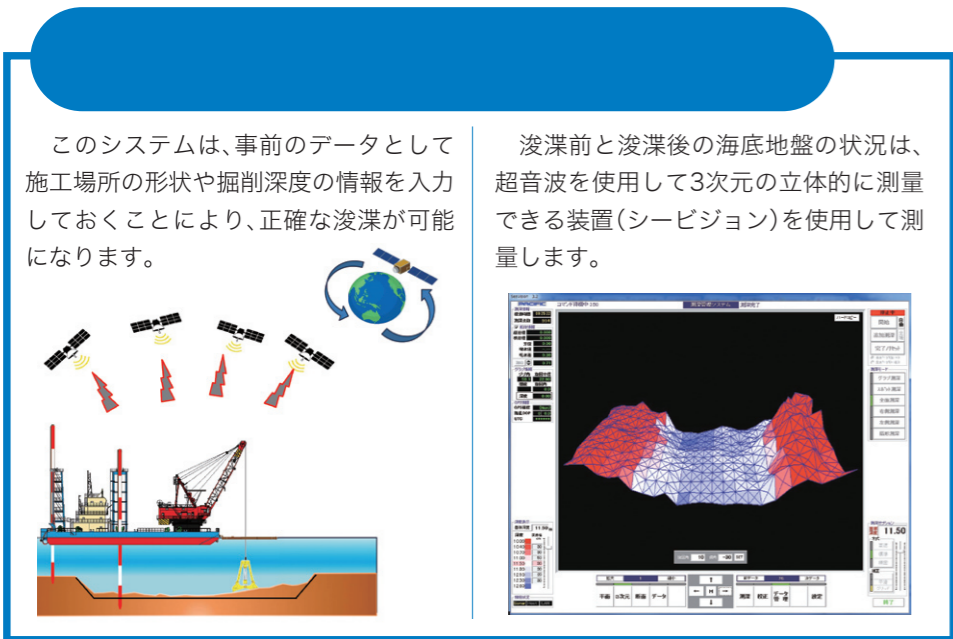
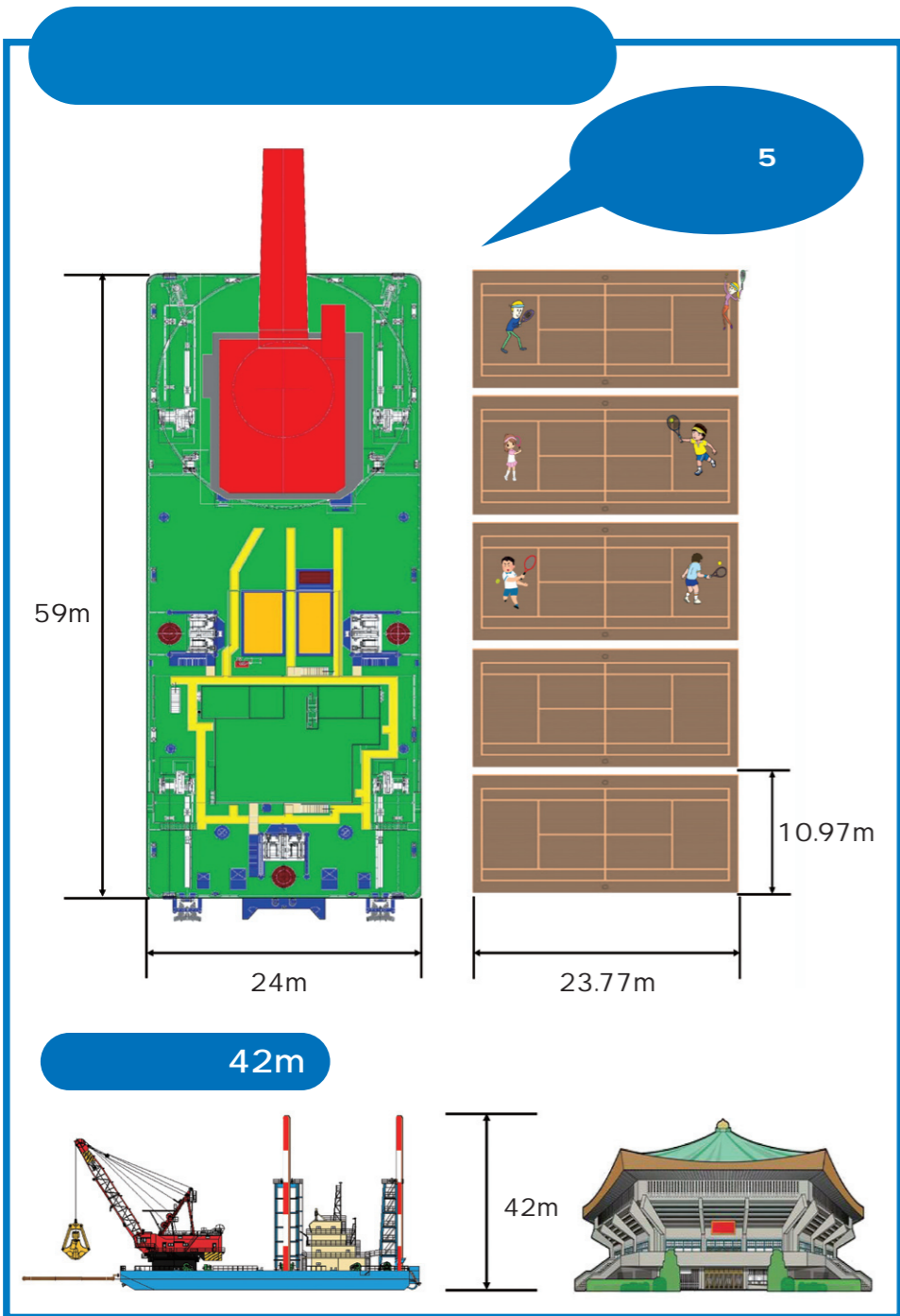
浚渫状況図



土砂運搬・投入状況図

浚渫した土砂を運搬する土運船は、1,700m³を積んで運搬することが出来ます。50m に入っている水の量が約1,700m³のため、50m の水と同じ量の土砂を一度に運搬していることになります。この船が2隻で交互に浚渫場所と土砂処分場とを往復して土砂を運搬しています。





クレーン操作室

グラブバケットが土砂を掘んだ状態では、72tのグラブバケットの自重に加えて、土砂の重量が加わるため、120tを超える重さになります。オスの象の体重が約6t。20頭の象を一度に積み上げて旋回する能力の起重機を操縦しています。

4F 操船室

大きな船を動かすのって大変そう

i-Fi

2F 船員室

船内もきれいでとても快適!

1F 食堂・炊事場・お風呂

巨大なバケット動かすのカッコいいな

バケット・甲板

近くで見ると思った以上に広いんだー

バケット・甲板

土砂を掘削するグラブバケットの大きさは、長さは閉じた状態で5.2m、広げた状態で8.0m、幅は3.6m、高さは9.1mで、重さは72tになります。